

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：1歳児クラス)

モニカ三軒茶屋園

Monica

テーマ

光と色の関係性

設定理由

公園で子どもが日陰から日向に移動した際に、「あったかいね。」と言いながら日向に寝転んだり、落ち葉に触れたりする姿が見られた。ライトテーブルの上で葉を重ねた際に色の違いに気づいた。光の当たり方の違いによって、温かさや明るさの違いに気づき、興味を示していたことからテーマにすることにした。

対象クラス

1歳児クラス・7名

活動のねらい

光によって広がる色の世界を通して
感覚的な心地よさや驚きを味わう

キーワード

「何色かな？」
「動かすとどうなる？」

活動期間

令和8年2月～3月

活動回数

計3回

活動①

光と色の重なり

問 い

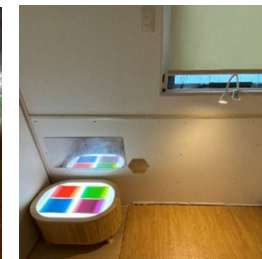
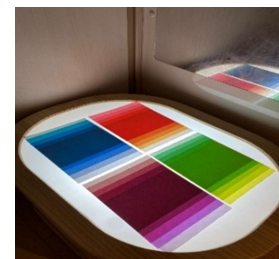
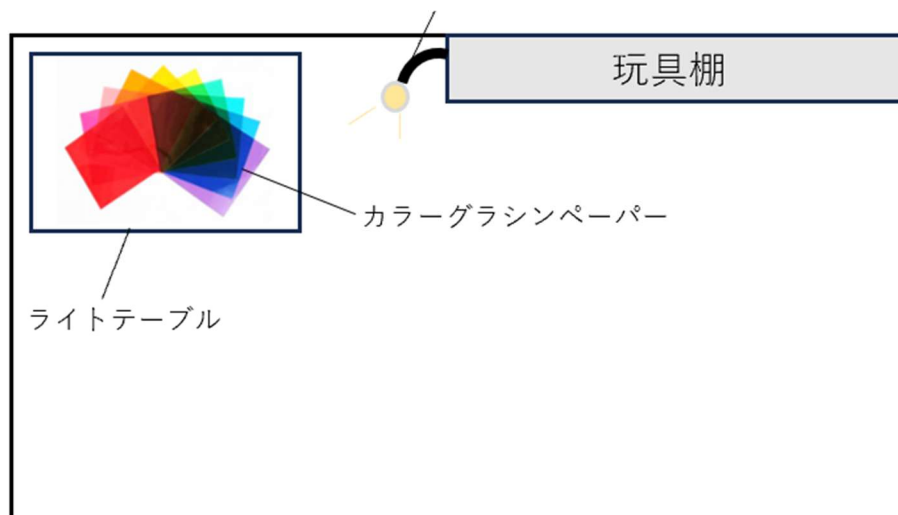
「何色かな？」 「動かすとどうなる？」

準備物

ライトテーブル | カラーグラシンペーパー(24色) | クリップライト(1) ¥ カラーボトル(赤青黄緑)
アクリル積み木(7色) | ウォーターブロック(赤青黄) | カラーコップ(赤黄青緑)
カラーセロファン(赤青黄緑紫)

環境構成

- ・ ライトテーブルの上でグラシンペーパーをグラデーションに重ね、色の変化を感じる。
- ・ クリップライトを設置し、気づいた子がグラシンペーパーや立体透過物を光にかざして色の見え方を試す。



色と光

テーマを設定する

「あったかいね。」と日向に寝転んだり、日陰と日向の違いを感じていた。光の当たり方によって、温かさや明るさの違いに気づき、興味を示していた。

色の名前を覚え始め、色を見つけて共有する姿があったため

活動① ～色の重なり～

「何色かな?」「動かすとどうなるかな?」という問いをもとに、ライトテーブルに並べたグラシンペーパーを重ねたり、立体物を光に照らしたりする。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・ライトテーブル1 ・クリップライト1 ・カラーコップ(黄赤青緑)
- ・カラーボトル(赤青黄緑) ・ウォーターブロック(赤青黄) ・アクリル積み木(7色)
- ・カラーセロファン(7色) ・カラーグラシンペーパー(24色)

事前の試し

- ・カラーセロファンで色の重なりを試す予定だったが、グラデーションに並べるというアドバイスをいただき、より薄く重なりがきれいに出来るようなグラシンペーパーを使用することにした。
- ・光の当て方に変化が付けられるようクリップライトを加え、子どもたちが光を自由に動かせるようにした。
- ・平面素材のみで行う予定だったが、助言を受け、普段使用しているアクリルブロックやカラーボトルも環境に取り入れた。

探究活動を実践する

●活動内容

平面素材に加え、普段使用している立体物も取り入れた環境の中で、ライトテーブルの上に並べたグラシンペーパーを自由に持ち上げたり重ねたりして光で透ける様子や重ねた時の色の変化を感じる。

●子どもたちの様子

- 「何色かな?」「動かすとどうなるかな?」という問いに対して
- ・反射した光の中に立ち、「ピカピカはいっちゃった」と光を空間として捉える
 - ・グラシンペーパーを破いたり丸めたりしながら光との関係を試す
 - ・「きいろさん」と色に呼びかけ、光を対話の相手のように感じながら関係を築く
 - ・自ら光を動かす中で、偶然生まれたコップの影の美しさに出会い、不思議さを感じる
 - ・カラフルな積み木を入れたコップを緑の紙で覆い、「みどりがいっぱい」と色が一つに包み込まれる変化に気づく

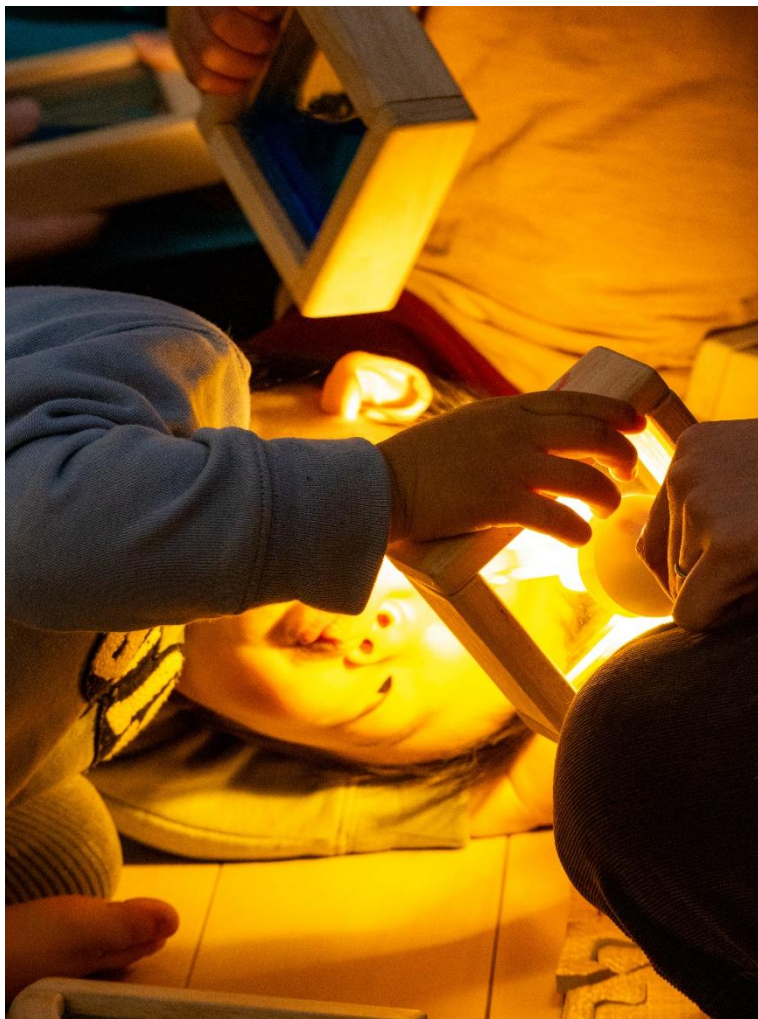


講師との振り返りをふまえた気づき

ライトテーブルの上で素材を重ねたり、クリップライトにかざしたりしながら光と色の変化を確かめる姿が見られた。透過する素材・しない素材の違いや色の重なりによる変化に気づき、「みどりみたい」「ひからない」など自らの発見を言葉にする姿があった。特に、クリップライトを自ら動かしたことで、生まれた影や光の広がりに出会う姿が印象的であった。環境は固定されたものではなく、自分の働きかけによって光や色の現れ方が変わるという体験が探究を深めるきっかけとなっていた。この姿を受け、次回は懐中電灯を用い、自ら照らす位置や角度を変えながら光と色の関係をより主体的に確かめられる環境を構成する。また、光の動きに伴って現れる影にも目を向け、光が生み出す変化を多面的に感じられるようにしていきたい。子どもが環境に働きかけ、その変化を感じ取るプロセスを大切にしながら、光と色の探究を連続的に展開していきたい。

きらきら、どうぞ

R8.2.10 阿部



光の上に重なった、たくさんの色。

「いっぱいふしぎ」

たくさんの中から、

「きいろさーん！」「ピンクさーん！」と、

優しく呼びかけ、色を迎えに行く。

見つけた色を光に当てると、気づけば自分も染まっていた。

やがて、自ら素材を持ち出し、光にかざして試し始める。

光を受けて変わるもの。

変わらないもの。

その違いにも、目が向いていく。

一際綺麗に見えた素材は、そっと周りに差し出される。

見つけた “キラキラ” を誰かと分かち合うように。

光が当たることで、色は重なり合いながら新しい表情を見せる。

その変化を試し、見つけ、共有する中で探究は広がっていった。

活動②

光の操作による煌めき

問 い

「光を動かすと何が見える？」

準備物

アクリル積み木 | ウォーターブロック | 懐中電灯(4) | 透明カプセル(3) | オーロラ紙 | カラーセロファン | クリップライト(1) | 透明ケース | 暗幕

環境構成

- 透明カプセルにオーロラ紙やカラーセロファンを入れた素材を準備し、懐中電灯で照らして生まれる光と色の煌めきを感じる
- アクリル積み木やウォーターブロックにクリップライトを上から照らし、自然に現れる光と色の輝きを探る



色と光

前回の振り返りの際、平面よりも立体に興味があること、体の動きと連動した探究の方が子どもの姿に合っていそうという対話の元にセットアップをする

活動② ～光の操作による煌めき～

「光を動かすと何が見える？」という問いをもとに、暗くした部屋でアクリル積み木やウォーターブロック、中にカラーセロファンを入れたカプセルを懐中電灯で照らし、自由に光や色の煌めきを創り出す

環境をデザインする

●準備したもの

- ・クリップライト1 ・ウォーターブロック（赤青黄）・アクリル積み木(7色)
- ・カラーセロファン(2色) ・オーロラ紙1 ・透明カプセル3 ・アクリルスタンド2
- ・アクリルケース1 ・懐中電灯4

事前の試し

- ・床に直接ウォーターブロック等を置くよりも、透明の台の上に置くことで光が通り、より綺麗に見えるのではないかと考えアクリルケースを環境に加えた。
- ・透明カプセルの中にオーロラ紙やカラーセロファンを入れ、転がしたり動かしたりすることで光や色の変化がどのように現れるかを確認した。
- ・子どもたちが光を自由に動かせるよう、懐中電灯の配置や素材の置き方を調整した。

探究活動を実践する

●活動内容

立体透過物や透明カプセルを懐中電灯で照らしたり動かしたりしながら、光の当たり方によって現れる色や輝きの変化を感じる。

●子どもたちの様子

「光を動かすと何が見える？」という問いに対して

- ・光の輝きや変化に気づくと保育者に見せにくる等、発見した美しさを共有しようとする
- ・懐中電灯を近づけたり離したりしながら「おっきくなった」と光の特性に気づく
- ・光を追いかける姿が見られ、光そのものの魅力に引き寄せられる
- ・アクリルケースの上にウォーターブロックを置き「きいろ」と好きな色を選んで懐中電灯で照らすなど、色と光の関係を試す
- ・自分の手や体に光を当て「ててがあかくなった」と話し体を通して光の変化を感じ取る



講師との振り返りをふまえた気づき

懐中電灯で素材を照らす中で、子どもたちは光を追いかけてたり自分の体に当てたりしながら光そのものの存在や特性に出会っていた。また、光を近づけたり離したりする中で見え方が変化することに気づくなど、光の特性を感じ取ろうとする様子もうかがえた。アクリルケースの上に赤黄青のウォーターブロックを置き、好きな色を選んで照らしたり、自分でアクリル積み木を並べグラデーションになったものを照らしたりする姿も見られ、色と光の関係を自分なりに試している様子を感じられた。

こうした姿から、光を動かすことで現れる変化への関心が高まっていることが感じられたため、次回は光と色の動きをより大きく映し出す環境を設定し、子どもたちが変化を共有しながら探究できるようにしていきたい。

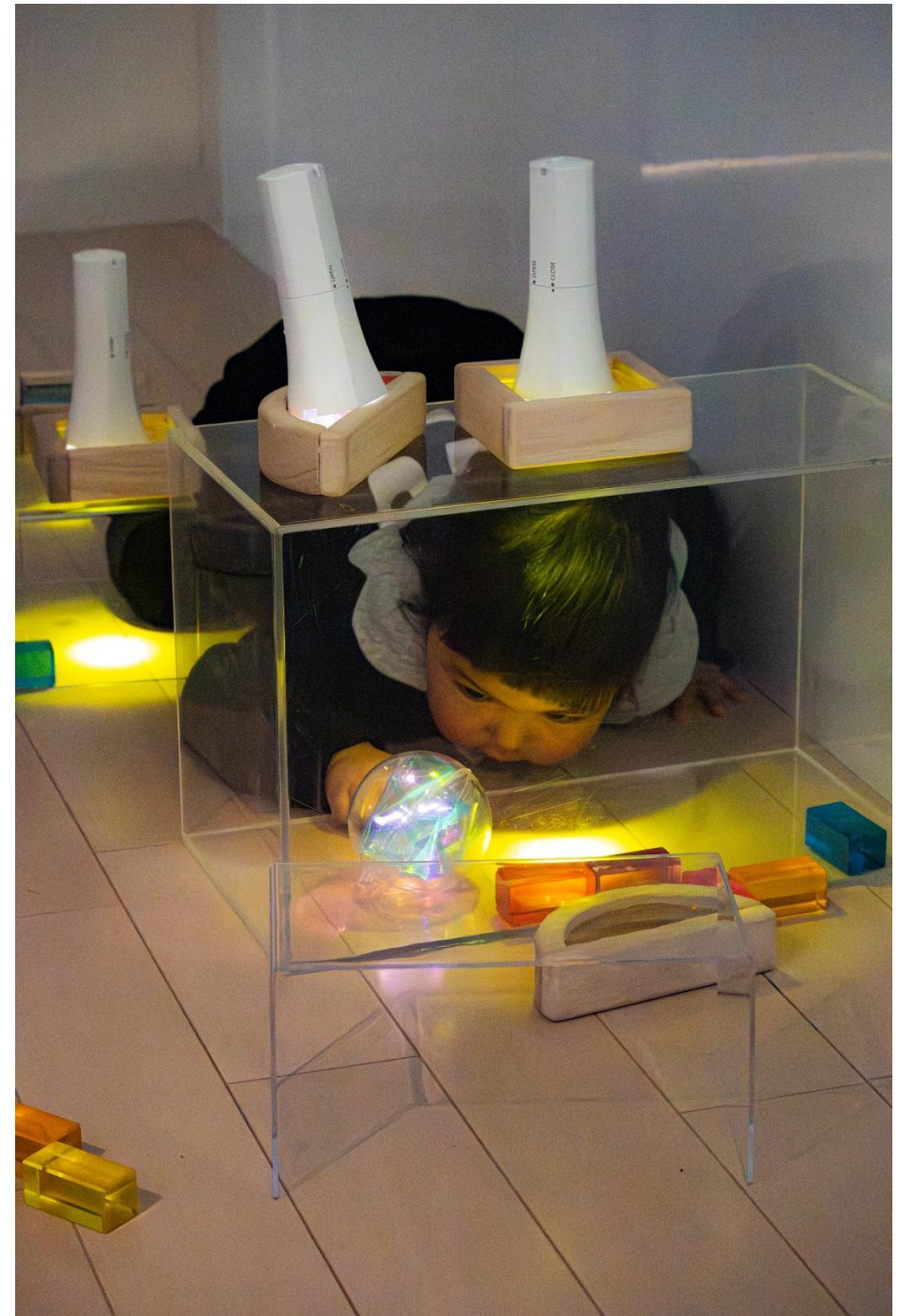
「ててがあかくなかった！」

「おっきくなかった！」

ウォーターブロックに懐中電灯を当て、アクリルトレーの上に置くと
床に赤や黄色の光が広がった。
低い姿勢で光の高さに目線を合わせ、手を差し入れ、覗き込み、光の中に入り込む。

懐中電灯を動かすと、影が大きくなったり小さくなったりする。
思わず追いかけてたくなる。
アクリル素材を重ねて、並べて、色や影の重なりを試す。

光のなかで、子どもたちは何を見つけているのだろう。
体と光と一緒に動く楽しさに、私も思わず引き込まれた。
色や影、重なり合う光の中で、この瞬間はひとつひとつの煌めきに満ちていた。



活動③

光と色の世界に入る

問 い

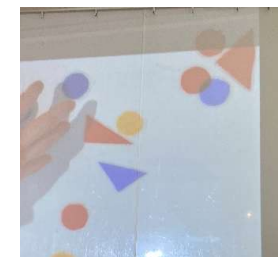
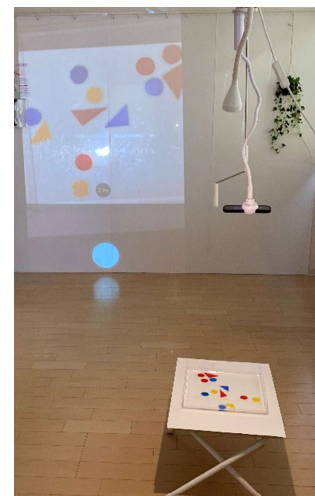
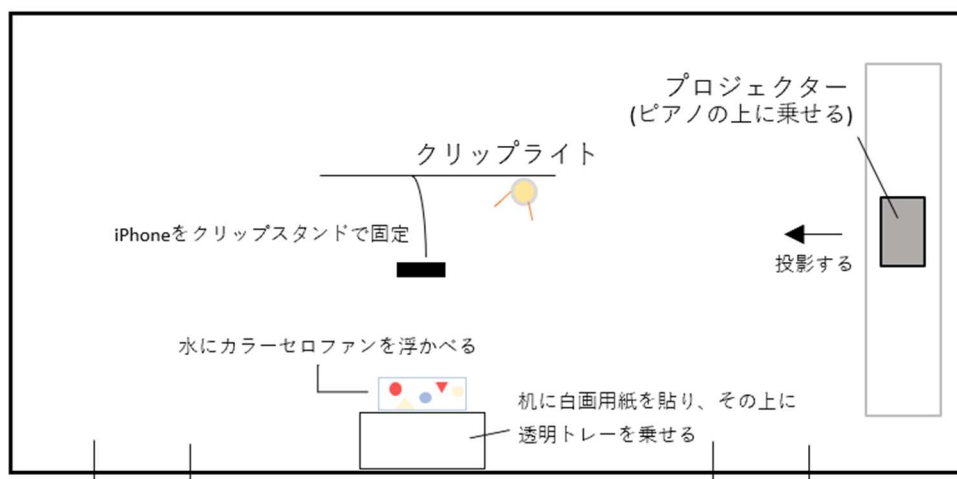
「色を動かすとどう見える？」

準備物

クリップスタンド | iPhone | プロジェクター | 暗幕 | 水 | カラーセロファン(○・△・A4シート)
クリップライト | 浅型透明トレイ | 白画用紙 | 机 | タオル

環境構成

- iPhoneをクリップスタンドで上から固定し、手元の様子をカメラで映してプロジェクターで投影する。
- 透明容器に少量の水を入れ、カラーセロファンを浮かべて動かす中でスクリーンに映る光と色の広がりや変化を感じる。



色と光

活動③ ～光と色の世界に入る～

「色を動かすとどう見える？」という問いをもとに、iPhoneのカメラで手元の様子を映しプロジェクターで投影する。カラーセロファンを動かす中で、スクリーンに映る光や色の広がり、揺れや重なりによる変化を見つめる。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・クリップライト1 ・アクリル積み木(7色)・双葉クリップ
- ・カラーセロファン(赤青黄ピンクオレンジ緑) ・机・白画用紙・プロジェクター
- ・iPhone・クリップスタンド・暗幕・浅型透明トレー(水を入れたもの)

事前の試し

- ・プロジェクターの拡大や位置を調整しながら、スクリーンへの映り方や光と色の見え方を確かめた。
- ・素材の重ね方や置き方によって光の広がり方やキラキラの見え方が変わることを確認し、子どもたちが光の変化に気づきやすい環境を整えた。

探究活動を実践する

●活動内容

カラーセロファンを動かし、プロジェクターに投影される光と色の広がりや重なりの変化を感じる。

●子どもたちの様子

「色を動かすとどう見える？」という問いに対して

- ・水に浮かぶカラーセロファンを取り出し、ホワイトボードに貼って並べる
- ・○や△のカラーセロファンを投影された形や色に近づけ「おなじだ」と確かめる
- ・赤いセロファンの上と何も無い所を行き来させ、色の見え方の違いを何度も見比べる
- ・プロジェクターに映る自分の影に気づき、立つ場所によって影が現れたり消えたりする様子を見つめる
- ・手元の動きとスクリーンに映る映像のつながりを捉えることが難しい様子もあった。



講師と振り返りをふまえた気づき

活動の中で「むらさきがいい」「きいろ」など自分の好きな色を選ぶ姿が見られ、色への関心やこだわりの高まりが感じられた。また、形にも目を向け、色や形を合わせて「おなじだ」と投影されたものに近づける姿やプロジェクターに映る自分の影に気づき、立つ場所によって姿が現れたり消えたりする様子を見つめる姿もあった。

一方で、手元の動きとスクリーンに映る映像の繋がりに気づくことは難しく、保育者の声掛けによって気づく姿も見られた。

また、水を叩いて水しぶきをあげたり、水のついた手で手拍子をして水を散らしたりするなど水の動きや感触にも興味を向けていた。

今回の環境は広い空間であったため、布などで空間を区切り、落ち着いて手元の変化に目を向けられる環境の工夫も必要であると感じた。また、子ども自身が位置や角度を調整できる懐中電灯などを用いることで、より主体的に色と光の変化を試すことに繋がるのではないかと感じた。今後は、光を通す素材だけでなく光を通さない素材も取り入れながら光や影の違いにも目を向けていきたい。

色を届けに

最初は色にタッチ。

大きな色に触れて、色に挨拶する。

スクリーンを横切ると、もう一人の自分が現れる。

影の自分は、光の世界と一緒に動く。

入れば現れ、出れば消える。

不思議そうに行き来しながら、少しずつその世界に入っていく。

手元の素材をとると、映像の中の色と形はすぐに消えてしまう。

「早く届けないと！」

素材をもって壁まで走る。

けれど、急いでも間に合わない不思議。

それでも子どもは、

映像の世界と、手元の素材を行き来しながら

色や形を何度も運んでいく。

そうやって光の中の色と仲良くなっていった。

そしてきっと、この世界との関係は、これからも続いていく。



使用物

ライトテーブル | カラーセロファン(赤黄青) | カラーグラシンペーパー(24色) | アクリル積み木(7色)
ウォーターブロック(赤黄青) | カラーコップ(赤黄青緑紫) | カラーボトル(赤青黄緑) | iPhone
クリップスタンド | クリップライト | 懐中電灯(4) | プロジェクター | アクリルトレー
透明カプセル(3) | オーロラ紙 | 透明ケース | 暗幕 | 白画用紙 | 浅型透明トレー(水入り) | 机(1)

テーマ：光と色の関係性

全体の振り返り

全3回の活動を行う中で、子どもたちは光や色に触れながら、色の違いや広がり、重なりなどに目を向けるようになっていった。色を「きいろさん」と表現する姿や、好きな色を選ぶ姿も見られ、光によって広がる色の世界を感覚的に感じ取っていた。光の当て方や素材の重ね方によって見え方が変わることに気づく様子があった。今後も子ども自身が光や素材を動かしながら変化に気づける環境を工夫し、色と光の関係への探究を深めていきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ三軒茶屋園

〒154-0011
東京都世田谷区上馬1-17-10-2階
TEL:03-6450-8402
FAX:03-6450-8403